

ピグマリオンの伝説が教える愛と信念の力

1 ピグマリオンの伝説

昔、キプロス島に、「ピグマリオン」という名の若い王がいました。

その王の趣味は彫刻で、いつも女性の像を彫っていました。ある時、非常に美しい大理石を手に入れると、早速、全身全霊を打ち込んで、『理想の女性像』を彫り始めたのです。



この世の生きた女性を越えた完全な美を追求し、ついに完成しました。それはまるで生きているようでした。

やがて、ピグマリオンは、自分で彫った女性像に恋をしてしまったのです。あたかも生きているかのように扱い、花を摘んで与え、ネックレスをかけてやり、夜になるとベッドに横たえたのでした。ピグマリオンは、この像が命のある人間であることを信じ続けました。

このひたむきな願いが、やがて、愛と美の女神であるアフロディテの耳に届きました。そして、大理石の女性像に命を与えてやったのです。

冷たい大理石の像に赤みがさし、肌のぬくもりが感じられるようになりました。ピグマリオンがそっと近づけた像の唇が、かすかに震えました。命が宿ったことに、彼は歓喜しました。そして、その女性への永遠の愛を、アフロディテに誓ったのです。彼女をガラテアと名付け、二人は結婚しました。二人の間には、子供も生まれ、いつまでも幸福に暮らしたということです。

2 ピグマリオンの伝説の教え

ピグマリオンの伝説は、「愛情と信頼をもてば、何事もかなうようになる」という

ことを教えてくれます。生まれたままの子供は、言わば、大理石。その子供を素晴らしい人間にしていくことができるのは、周りの大人と言えましょう。

3 愛と信念の力の発揮

では、今、どんなことをやればよいのでしょうか。大人ができることの一つに『温かい言葉かけ』があります。愛情と信頼をもった人がかける言葉かけは、そうでない人と全く違ったものになることが多いものです。

いつもは60点ぐらいしか取れない子が、90点というよい点を取りました。内心、子供は褒めてもらえるとウキウキしているに違いありません。担任が点を付けたのにもかかわらず、

「先生、90点だったよ。」

と言ってくる時さえあります。そんな時、どんな言葉かけがあるのでしょうか。

①「そう、いつもより高い点だね、よかったね。」

②「90点も取れる力があるのに、今まで何をやってたんだ。」

③「90点取れるんだったら、もう少しがんばれば100点取れたね。」

④「90点？ 1回ぐらい取れたって今度ができなければだめだよ。」

①は、まあまあ。②～④は、どうでしょうか。やはり、前述のピグマリオンの伝説にもあるように、「よかったね。がんばったからだよ。」「やったねえ、すごい！」のように、相手の気持ちになって、喜んでいくことが大切なのではないでしょうか。

